

令和6年3月19日（火）

3学期終業式 講話



おはようございます。

令和5年度も今日、終業式をむかえることになりました。この1年間は皆さんにとってどのような時間でしたか？人は過去の縛られず、未来を見据えながら、しっかりと今を生きなければならないと思いますが、今という「時」をより良い「時」にするためには節目、節目で自分自身を見つめ、その時の「**自分を認める**」ことが大切だと私は考えます。皆さんは1年前と比べて、何ができるようになりましたか？また、何を新たに知ることができましたか？もしかすると、それほど変わってないかもしれませんが、しかし、全く同じということはないはずです。少しの変化でも、それは次へと続く変化です。この時期に、じっくりと自分自身を見つめ、今の自分をありのまま認めてください。自分の嫌な部分と向き合うことになるかもしれません。そんな自分でも「あ、これが今の自分なんだ」と認めてやりましょう。**「自分なんて」と否定するのではなく、「これも自分なんだ」と認めてやる。**そうすれば、そこから新たな時間が流れ出します。

話は変わりますが、先日、本当に久々に飯野山に登ってきました。小学生の頃以来になります。日頃、間近に見られる飯野山。季節によって、また、その時々によって、少しずつ異なった姿を見せてくれます。当日は晴天で、多くの人たちが飯野山登山に臨んでいました。登山の途中で偶然にも見慣れた体操服に出会いました。バレー部の生徒のみなさんでした。思っても見ない場所で知り合いと出会うと何となく嬉しい気持ちになるものですね。登山者は年配の方が多かったのですが、小学生低学年の2人の子供を連れたお母さんもいました。そのような登山者とすれ違いながら「人はなぜ、山に登るのか？」ふと、そんなことを考えました。人によって、答えは異なるのですが、私は「確認するため」だと考えています。自分自身を確認するため。私は山道を登りながら、心地よい風に吹かれ、土や岩の感触、桜はまだ咲いていませんでしたが、木々の香りに触れ、そして、澄んだ空を見上げながら、忘れていた大切なことを確

認することができました。それは周囲のちょっとした変化に気付く心の余裕です。時の流れに乗り遅れまいと慌ただしく過ごしていた自分を認め、日々の過ごし方を考え直しました。

また、山を登るにつれて変化して行く景色を前に「歩み続ける」大切さを確認できました。山頂に近づくほど、視界は広がり、より遠くまで見渡すことができるようになりますが、途中で疲れて歩みを止めると見ることはできたはずの世界を知ることができなくなります。このことはすべてに通じることで、進むことを諦めれば、その先に広がっている世界に触れることはできません。重要なのは、**「その場に留まるのではなく、諦めずに歩み続けること」**だと私は考えます。そうすれば、必ず道は開ける。このことを是非、心に留めて置き、来るべき令和6年度、皆さんには**「ありのままの自分を認め、歩み続ける」人であってほしいと願っています。**

以上で終わります。